

『特技ボランティア養成講座』

落語を学び

ボランティアをはじめよう!!



監修 山形落語愛好協会

平成25年7月11日作成

テキスト制作

山形落語愛好協会

住 所 990-2221 山形市風間 1408 - 20 (080-1823-7324)

メール kansuke@i.softbank.jp

ホームページ <http://rakugo.ex5.biz/>

執筆陣

代 表	笑風亭 間助	・・・	構成、編集、落語台本、小噺集、コラム など
副代表	笑風亭 佐と吉	・・・	落語台本、小噺集、コラム など
演目研究室長	石々亭 註馬	・・・	落語台本、小噺集、コラム など
主任噺家	桜亭 猫いち	・・・	コラム、落語の用語辞典 など
主任噺家	笑風亭 おすし	・・・	監修 など

もくじ

1日目 ボランティア落語の醍醐味	・・・P2
コラム1 「落語の歴史について」	・・・P3
2日目 落語のいろはを覚えよう	・・・P4
コラム2 「落語の出囃子について」	・・・P5
3日目 落語の稽古の仕方	・・・P6
4日目 選んだ演目を稽古しよう!!	・・・P8
コラム3 「落語の演目選び①」	・・・P9
5日目 ボランティア落語の実地見学	・・・P10
コラム4 「オチ(サゲ)の種類について」	・・・P11
6日目 最終稽古会	・・・P12
コラム5 「落語の演目選び②」	・・・P13
7日目 さあ、噺家デビューです!!	・・・P14
コラム6 「噺家の序列について」	・・・P15
コラム7 「東京と大阪の寄席」	・・・P16
コラム8 「落語の団体と所属人数など」	・・・P17
コラム9 「ドラマや映画、漫画など」	・・・P18
【巻末付録】 落語の用語辞典	・・・P20

1日目 ボランティア落語の醍醐味

1 ボランティア落語ってどんなもの？

落語は、江戸時代から伝わる伝統的なお笑い芸です。昔から日本人の心を癒してきた素晴らしい伝統文化でもあります。

プロの落語はもちろんのことですが、実は日本の各地でアマチュアの落語家が大活躍しています。阪神淡路大震災や東日本大震災でも、落語を通して被災者のみなさんの心を癒す活動をしていました。

現在の落語では、プロだけでなくアマチュア落語家の活躍もなくてはならないものになっているのです。

2 ボランティア落語の醍醐味

アマチュア落語の醍醐味は、なんと言っても「演じる側の爽快感」、これに尽きると思います。見ているお客さんはもちろん楽しんでもらえますが、実は、演じている噺家が一番気持ちが良いというのがお笑い芸の面白いところです。

また、はたから見るとは違い、覚えることも決して難しいものではありません。なんどもなんども反復すれば、誰でもできるようになります。

必要な道具も演劇の舞台などとは違い、扇子と手拭いだけ。しかも、演劇の場合は、大勢で何度も集まって稽古をしなければなりません、落語の場合は一人で稽古して、一人で披露できるという手軽さがあります。

しかも、手軽な芸であっても、やり続けるとどこまでも奥が深いので、飽きることなく続けられるという意味、長く続けられる趣味の一つと言えるでしょう。

3 アマチュア落語の目的

アマチュア落語家の活動は、そのほとんどが「ボランティア活動」です。ボランティア活動には、交通費などの実費だけをいただく「有償ボランティア」も含まれます。アマチュア落語は、お金を稼ぐことではなく、お客さんに楽しんでもらうことが本来の目的になります。

4 活躍の場はたくさん

地域のいきいきサロン、敬老会、介護施設、障がい者施設、小学校、など活動の場は実に様々です。芸を披露する場にはこと欠きません。

5 仲間を作ってワイワイ楽しく取り組もう！！

コラム1 落語の歴史について

落語の始まり

落語のはじまりには諸説ありますが、中でも元祖落語家としてと有力なのは、江戸時代の京都のお坊さんで、「安楽庵策伝（1554～1642）」（あんらくあんさくでん）です。

当時、字の読めない人たちにも仏の道を教えるために、なるべく楽しく「小噺」を入れたり、最後に「噺の落ち」を使ったりして話しました。

また、面白い噺をしゃべり、それを一冊の本「醒睡笑」（せいすいしょう）にまとめて、京都所司代に献上しました。

この中には落語の原型になったと思われる噺も多くあり、この「醒睡笑」が落語の元になった本といえるでしょう。

そのため、安楽庵策伝が「落語の祖」と呼ばれるようになりました。



主な亭号

① 三遊亭（初代：三遊亭 円生）

「飲む、打つ、買う」の三道楽をシャレてつけました。

② 古今亭（初代：古今亭 志ん生）

初代の三遊亭から分かれました。「われこそは、古今まれにみる噺し家。われこそ真の生なり」

③ 金原亭（初代：金原亭 馬生）

馬生は幕府の放牧場だった金原(千葉)の出身。馬派と呼ばれました。

④ 柳家（初代：柳家 小さん）

決してものに逆らわない、自然のままが良い、という意味があります。

⑤ 林家（初代：林家 正造）

江戸にも上方にもある亭号です。各時代ごとに他の亭号の系譜をつなぐような役割も果たしました。

古典落語と新作（創作）落語

出来た当初は、どの噺も新作（創作）落語です。その中で時代を超えて伝えられるようになった演目を「古典落語」としています。

新作落語は大正期以降のもの、古典落語では戦前記前くらいのものがあります。



2日目 落語のいろはを覚えよう

1 落語ってどんなもの？

(1) 落語の特徴

- ① 一人芸
- ② 口伝による話芸（1680年頃、東西ほぼ同時に発生したようです。）
- ③ 道具は扇子と手拭だけ（上方落語は「見台（けんたい）」と小拍子、膝隠しも使います。）
- ④ 最後にオチがある。

(2) 噺の種類

- ① 滑稽噺（落とし噺） …… 最後にオチがあります。落語の原型？
- ② 人情噺 …… 人情に訴える、泣かせる話です。
- ③ 怪談話 …… その名のとおり怪談ものです。

2 落語の構成



(1) 出囃子（でばやし）

噺家が登場するときのお囃子です。出囃子が鳴ってから高座に向かって歩き始めます。

(2) マクラ

※落語の前に、自己紹介や世間話、演目に関係のある話などを楽しく話します。

(3) 演目

落語の本題です。

(4) 次の噺家の出囃子

次の噺家の出囃子とともに高座を降ります。次の噺家がない場合も「中入り」や「追出し太鼓」といった囃子をかけたりします。

3 落語の演じ方

(1) 大きな声でハッキリと

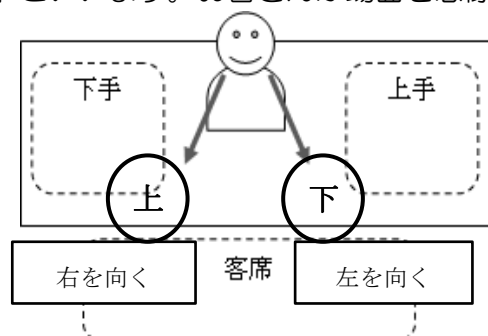
いくら話が上手に演じられても、お客さんが聞き取れなければ意味がありません。また、声に迫力があるとお客さんを笑わせやすくなります。

(2) 所作

動きを使って人物などを演じることを「所作」といいます。お客さんが場面を想像しやすいように心がけましょう。

① 上・下（かみ・しも）

お客さんに向かって座り、右を向くことを「上（かみ）」、左を向くことを「下（しも）」と言います。ここでは目上の方が上（右向き）、反対の人が下（左向き）と覚えましょう。



② 演技

身振り手振り、道具などを使って、お客さんに場面を想像させます。

③ 目線

上下と目線を使って、話している相手や見ているものなどを想像させます。

(3) 間を意識する

噺でお客さんを笑わせることができたなら、その笑いがある程度おさまるまで待ってあげましょう。お客さんの反応にあわせて噺を進めていくと、お客さんとのコミュニケーションや場の一体感が得られます。

4 小噺（こばなし）を演じてみよう！

【演じ方】

- ① 小噺を選びます。
- ② 順番が来て、出囃子が鳴ったら高座に向かいます。
- ③ 座布団の上に座り、両手をついてお辞儀します。
- ④ 自己紹介してから小噺に入ります。例)「〇〇と申します。一席おつきあい願います。」
- ⑤ 上・下を付けて小噺を演じます。 ※今回は「上・下」だけでOK！
- ⑥ 終わったら両手をついてお辞儀します。
- ⑦ 出囃子にのって高座を降ります。

コラム2 落語の出囃子について

噺家と出囃子

プロの噺家の場合、噺家ごとに1曲ずつ決まった出囃子があります。

例外として、大トリ（一番最後に演じること）は「中の舞（ちゅうのまい）」を流すことが多いです。

噺家と出囃子

柳家小さん（5代目）「序の舞」 / 5代目三遊亭圓楽（元禄花見踊）

桂枝雀「昼まま」 / 三遊亭小遊三「ボタンとりボン」

林家木久扇「宮さん宮さん」 / 柳家権太楼（3代目）「金毘羅船々」

柳家喬太郎「まかしょ」 / 立川談春「鞍馬（くらま）」

一番太鼓・二番太鼓・追い出し太鼓

一番太鼓・・・開場後にお客さんを招き入れるときに鳴らします。

二番太鼓・・・開演直前に鳴らし、落語が始まるのをお客さんに知らせます。

追い出し太鼓・・・終演後に鳴らします。「出てけ・出てけ」

と鳴らすのがコツだそうです。



3日目 落語の稽古の仕方

1 稽古の基本

稽古の基本は反復練習です。人前での披露に向けて何度も何度も反復練習するのみです。最初は大変かもしれませんが、だんだん慣れてくるから不思議です。

2 稽古の仕方

(1) 音源を聞こう

落語の音源を用意します。CDプレイヤーやMP3プレイヤー、パソコンなどで何度も聞いて、はなしの全体像をつかみましょう。

音源だけでも稽古できますが、音源を聞きながら、台本を作ると早く覚えられます。

※今回は台本も用意しました。

(2) 場面に分けて反復練習

実際に言葉に出して反復稽古します。場面などを考えて、自分なりにブロック分けしてから、そのブロックごとに練習すると良いでしょう。

※ここで簡単な所作（上・下くらい）は付けておきましょう。

落語をしゃべりながら覚える。（ここが重要です。） ①②③を繰り返す。

①

せりふ単位で音源を何度も聞き、実際に喋って覚える。

②

①を繰り返して、しゃべることができるまで覚える。
覚えたら次のせりふへ。

③

ある程度まとまったら、場面単位で喋ってみる。

(3) 通して反復練習（ここまできると結構楽しいですよ！）

最初から最後まで通して稽古をしてみます。通し稽古をしたあとに音源を聞きなおすと、いろいろなことがわかるので、その部分は、また稽古をして補強します。

①から③までどのくらいできるか、チェックしてみましょう。

バッチリ!!

とりあえず、最後までしゃべれる。

すごい!!

ある程度なめらかにしゃべれる。

完璧!!

酔っ払っててもしゃべれる。

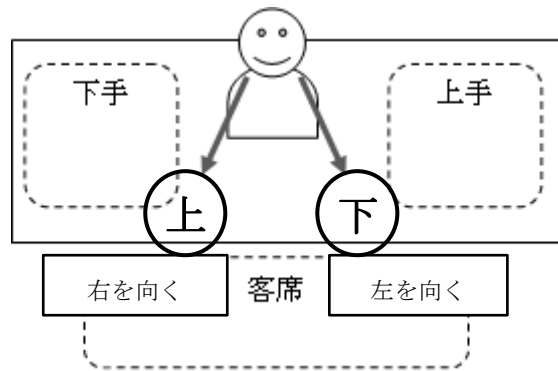
(4) 所作をつける

①上・下（かみ・しも）をつける

人物の立ち位置から上手と下手を考えて、上下を付けます。

「偉い人が上、反対が下」が基本になります（ご隠居が上、八五郎が下）。

※あくまでも原則で例外も多いです（槍を構えた武士は「下」など）。



上手・・・客席から見て右側が上手になります。通常、家の中にご隠居は、上手にいるので、右を向きます（上）。

下手・・・客席から見て左側が下手です。通常は家の入口が下手になります。入口（下手）から来る人は、通常左を向きます（下）。

② 扇子・手拭いの使い方

演目によっては、扇子と手拭を使って演じる必要が出てきます。

※「たけのこ」という演目では、手拭をザルに見立てて使います。

③ 体の所作（目線など）

最後に、人に見てもらいながら、目線や全体の所作などを確認してみましょう。

(5) 人前で披露してみる

練習でできても、人前でやるのは緊張感が一味違います。うろ覚えの部分などでは頭が真っ白になるはず（実は、みんなそうです）。

最終確認は、必ず人前で披露して稽古してみてください。いろいろなアドバイスが聞けて、どんどんうまくなれます。

所作の練習は、最初、一人では難しいと思います。自宅では話の練習だけにして、勉強会などを所作の練習に使っても良いかもしれません。

いよいよ・・・！

ここで、覚える演目を1題決めましょう！！

4日目 選んだ演目を稽古しよう!!

1 マクラを作ろう

(1) 話題をいくつか並べる ※なにをどの順番で話すか？

今回は、あまり欲張らずに、「自己紹介」「世間話」「演目に関係ある話（例えば、「たけのこ」や「桃太郎」の話など）」くらい、長さも1分くらいにしましょう。

(2) 話題ごとにオチを付ける ※ここが大事です！

(3) 話題をつなげる ※無理やりでもOK！

(4) まくらシート

まくらシートを使って、しゃべる内容を並べてみましょう。出来上がったら、落語と同じように稽古するようにしましょう。

2 会場の作り方

(1) 高座づくり

噺家が座る場所を「高座」と言います。以下に気を付けながら設置します。

① 高座の高さ

全部のお客さんが前の人の頭よりも上に、演者の全身を見られるのが理想です。

- ・座布団座りの時・・・70cmくらい
- ・イス席の場合・・・90cmくらい

② お客さんとの距離

一番前のお客さんとの距離は2m以内くらいになるようにしましょう。

※遠すぎると、笑いが起きにくくなります。

③ めくり

演者の脇に、噺家の「高座名」を書いた「めくり」を置きます。



(2) 出囃子

今回は、CDプレイヤーで出囃子を流します。

(3) その他

お客さんが大人数の場合は、マイクを使います。

落語の場合、一般的なマイクでは声を拾えないので、特殊なマイクを使います。

3 みんなで稽古しよう

(1) 稽古の要領

- ・机などに座ったままでOK
- ・声を出しながら覚える（今回は台本も活用しましょう。）
- ・小噺をしゃべった時を思い出そう
- ・わからないところは遠慮なく聞いてください！

(2) 一本通しでやってみたい人は、実際に高座に座ってみましょう！

コラム3 落語の演目選び①

最初はどんな演目が良いか？

演目選びは、面白さの半分くらいを決めてしまう大事な作業です。今回はなるべく短くて覚えやすい演目を6本選び、それぞれの特徴などをあげてみたので、これを参考に演目選びをしてみましょう。

演目の特徴と選ぶときのポイント

(1) つる

登場人物が少なく、とてもシンプルなのはなしです。

扇子・手拭いは使いません。

シンプルの中に落語の技法がすべて入っているとされる王道の演目です。

(2) みそ豆

登場人物は2人だけ、とてもシンプルなのはなしです。

扇子・手拭いを使います（皿としゃもじ）。

子供にも分かりやすいため、どんな場面でも使える演目です。

(3) 桃太郎

登場人物は2人だけ、とてもシンプルなのはなしです。

扇子・手拭いは使いません。

童話「桃太郎」のパロディーで、だれにでもわかりやすい内容です。

(4) たけのこ

登場人物は3人ですが、シンプルな内容です。

扇子を使います（ザル）。

登場人物は武士なので、武士らしい話しぶりの稽古が必要です。

所作には多少の工夫が必要です。

面白味があるので、稽古する価値ありです。

(5) 平林（ひらばやし）

セリフが早めで、場面展開も多めです。

手拭いを使います。多少難易度が高いですが、

明るくカラッとした話で、小さな子供から大人までウケが期待出来るので、

稽古する価値大です。

(6) そろそろ

小学校4年生の教科書に載っている演目です。

手拭い（財布）を使います。

おじいさんとおばあさんの演技が中心になります。

小学校の子ども達や学校方にも喜んでもらえる演目です。



5日目 ボランティア落語の実地見学



今回は、ボランティア落語の実践の場を、現地で実際に見ていただきます。落語会の雰囲気を楽しみながら、以下のポイントなどを見ていただければと思います。

1 高座まわり

高座の高さなど、実際にどんな感じで設営されているか。

2 客席

客席は「教室形式」になっています。お客さん通しの距離も遠すぎないので、大変やりやすい場が作れていると思います。

教室形式が無理な場合は、落語をしている時だけ、全員に正面を向いてもらいようお願いしています。

3 お客さんの様子

お客さんがどんなところで笑ってくれるかなど。

4 落語を演じるときの様子

出囃子を出すのタイミングや、高座に上がるタイミング、開催する場所に合わせて作るマクラ、お客さんとのやりとりなど、場数を踏んだ落語家がどのように演じているか見てもらえればと思います。

5 落語用の音響機器 ※興味のある方は

落語用マイクやアンプ、スピーカーなど、500人くらいの会場にも対応できる音響機器です。

コラム4 オチ(サゲ)の種類について

落語は、最後にオチ（サゲとも言います）があるところから落語と呼ばれるようになったといわれています。

オチの種類にも諸説ありますが、ここでは、落語芸術協会さんの分類を演目の例と合わせて紹介したいと思います。

間抜オチ（間抜けなことを言って終わるもの）

転失気／壺算／牛ほめ／ちりとてちん／初天神／看板のピン／千早振る／粗忽の釘／青菜／やかんなめ／目薬など

考えオチ（オチの後、よく考えると笑えてくるもの）

あくび指南／親子酒／寿限無／短命／転宅／道灌／饅頭恐いなど

地口オチ（駄洒落のオチ、「にわかオチ」とも言います）

火焰太鼓／金明竹／孝行糖／たいこ腹／平林／元犬／崇徳院など

しぐさオチ（身振りで表して終わるもの）

死神／妾馬／夢金など

とたんオチ（決めの台詞で終わるもの）

子別れ／地獄巡りなど

トントンオチ（とんとん調子良く噺が進んでオチになるもの）

子ほめ／雑俳／やかん／山号寺号など

ぶっつけオチ（全く関係のないことで終わりにするもの）

強情灸／桃太郎／鰻の幫間など

まわりオチ（結末が、噺の最初に戻るもの）

天狗裁きなど

逆さオチ（立場が入れ替わるもの）

うどんや／厩火事など

見立てオチ（意表をつく結末になるもの）

勘定板／たぬきなど

仕込みオチ（前もって伏線で落ちを仕込んでおくもの）

猿後家／出来心／悋気の火の玉など

この他に、話の途中の切りのいいところで「冗談言っちゃいけねえ」と言って落とす「冗談オチ」という便利なものもあります。



6日目 最終稽古会

1 これまでの振り返り

これまでの講座を振り返って、演じるときのポイントを整理してみましょう。

① 声を大きく、はっきりと

滑舌体操 「い・え・う・お・あ」

正しい口の形で母音をしっかり発音しよう！

② 上・下をしっかりと決める

人物を切り替えるときは、上下の切り替えをしっかりと！

③ 目線をしっかりと決める

相手（ご隠居や八五郎など）の顔を見ているつもりで話そう！

④ 覚えづらいセリフは何回も繰り返して稽古する

口が記憶するくらいまで繰り返そう！

2 必要な道具をそろえよう

(1) 個人でそろえるもの

- 着物 …… 中古のモノ（数千円くらい）でも十分です。
- 手拭い …… 100円ショップでも買えます。
- 扇子 …… 2,000円弱くらいです。※共同購入すると送料がかかりません。

(2) 共同でそろえた方がよいもの

※いずれの機材も、山形落語愛好協会でも所有しています。必要な際に無償での利用に協力したいと思います。

- 座布団 …… 紫色のモノ
- 赤毛氈 …… 実は毛氈でなくてもOK。赤い布なら安く購入できます。
- 出囃子 …… CDプレイヤーと出囃子CDなど
※ボタンを押すだけの出囃子プレイヤーもあります。
- めくり …… 手書きで作成したり、プリンターで印刷したりして作ります。
めくり台は、簡単に自作できます。
- その他 …… その他、音響機器などもあった方がよいですが、大きなイベントの場合は、山形落語愛好協会でもお貸しできると思います。

コラム5 落語の演目選び②

落語には、講座で取り上げた演目以外にも面白い演目がたくさんあります。

以下に、落語の演目を探ることができる資料等を掲載したいと思います。初心者向きの演目を選ぶ場合、次のポイントを参考にしてください。

ポイント

- ① 尺が長すぎないこと ※マクラを含めて 20 分以内が目安
- ② 登場人物が少ないこと ※同じ場面での3人の掛け合いは難しいです。

【文庫本】※落語を口演速記したものです。

講談社学術文庫 古典落語 【興津 要】
講談社学術文庫 古典落語(続) 【興津 要】
ちくま文庫 落語百選一春・夏・秋・冬 【興津 要】
ちくま文庫 古典落語 円生集〈上・下〉 【飯島 友治】
ちくま文庫 志ん朝の落語〈1~6〉 【京須 偕充 編】
ちくま文庫 落語特選〈上・下〉 【麻生 芳伸】
小学館文庫 柳家小三治の落語〈1~3〉 【柳家 小三治】
など

【DVD】※所作まで確認できるのがよいです。

柳家小三治全集
古今亭志ん朝 全集
一之輔落語集 「雛鰯 / 明烏」 など多数発売しています。

【インターネット】

ほとんどが無料で閲覧できます。音声しかないものが多いですが、気に入った動画が見つかるとてもラッキーです。

Youtube ※お手軽
ニコニコ動画 ※無料ですがID登録が必要です。
NHKオンデマンド ※有料

※いずれも「落語」で検索するとたくさん出てきます。



7日目 さあ、噺家デビューです!!

1 活躍の場はたくさんあります

山形市の周辺には本当にたくさんの「いきいきサロン」があります。

毎日、仲間で手分けしてお伺いしても1年では回りきれないほどです。

落語は実践でこそ、うまくなる話芸ですので、積極的に高座に上がっていただければうれしいです。



2 仲間といっしょにボランティア

落語は一人でできる芸ではありますが、一人だけの活動では、急に風邪をひいてしまったり、急な用事が入ったりした場合には対応できません。依頼をいただいた高座に穴をあけて、相手に大変なご迷惑をおかけしてしまいます。

このような理由からも、より安定して、一人ひとりが無理のない活動をするためには、落語仲間の存在は不可欠になります。

みんなで助け合い、ときには懇親を深めながら、無理のない楽しいボランティア活動をしていきましょう。

3 デビューの前に、高座名を決めよう!

最後に、実際に高座に上がるときの「高座名」を決めましょう。

ちなみに、高座名は「亭号」と「なまえ」の二つに分かれています。先に来る「亭号」が苗字というわけではありません。たとえば「三遊亭」の噺家のことを「三遊亭さん」とは呼びません（「林家さん」と呼ぶのもそれらしく聞こえますが、同じ理由で間違いです。）。

アマチュアの場合は、亭号もなまえも自由に決めてもらって構いません。

コラム6 噺家の序列について

噺家には、前座（ぜんざ）、二つ目（ふたつめ）、真打（しんうち）という3つの身分があります。

ここでは、それぞれの概要について、説明してみたいと思います。

前座

落語家社会ではまだ一人前とみなされない身分です。寄席の番組（プログラム）で一番初め（前）に高座へ座るので「前座」と言われます。

主な仕事は、師匠宅や寄席での雑用（前座修業）です。師匠宅では師匠やその家族のために家事などを、寄席では呼び込み太鼓・鳴り物・めくりの出し入れ・色物の道具の用意と回収・マイクのセッティング・お茶汲み・着物の管理・ネタ帳をつける、などの雑用をしています。

寄席で「開口一番」と呼ばれる最初の一席を受け持つ場合もありますが、出演料はもらえません。定席の進行の調整

約4年で二つ目に昇進します。昇進によって前座不足の状況になりそうな場合は、留年させられる場合もあります。

二つ目

前座の次の身分です。寄席の番組で二番目に高座へ上がるので「二つ目」と呼ばれます。

落語家社会の中でようやく一人前とみなされ、師匠の家や楽屋での雑用がなくなります。着物も、今までは着流しだったのが、紋付・羽織・袴を着けることができるようになります。

毎日楽屋へ来なくてもよくなるので、高座の数が減ります。仕事は基本的に自分で探してこななければなりません。そのため、噺の稽古にも気を入れないと、たちまちライバルとの差が開いてしまいます。

二つ目を約10年つとめると、いよいよ真打ちに昇進します。

真打

真打になると、寄席で主任（トリ）を務めることができるようになり、弟子をとることも許されます。また、「師匠」と敬称で呼ばれます。

昔の寄席の高座には照明用にろうそくが立っていて、寄席が終わると最後の出演者がろうそくの芯を打った（切って消した）ために「芯打ち」と言われていました。それが、縁起を担いで「真打ち」になったと一般的には言われています。



コラム7 東京と大阪の寄席

東京や大阪にある寄席を紹介します。そのうち(年末などを除き)毎日興行を行っている寄席は東京には4か所あり、昼前から夕方4時30分頃までの「昼席」と、4時30分から9時頃までの「夜席」まで、一日中楽しめます(時間帯や料金、入れ替えの有無などは寄席や興行によって違います)。東京の寄席は10日区切りで出演者が変わり、「上席」「中席」「下席」と言われます。

浅草演芸ホール：東西で最も初心者向けかも。落語協会と落語芸術協会が交代で公演を行っており、通常は昼夜入れ替えなしです。例年、8月に趣向を凝らした内容の公演が行われます。売店ではアルコール類や軽食も販売され、飲食しながら楽しめますが、売店は5時で閉店します。

新宿末広亭：畳敷きの棧敷もある、都内で最も昔の風情を残した寄席です。浅草と同様に落語協会と落語芸術協会が10日交代で興行を行っています。売店があり飲食しながら鑑賞できますが、アルコール類は持ち込みも含めて禁止です。土曜夜の深夜寄席や遅い時間帯の割引なども行われています。

池袋演芸場：池袋駅から徒歩30秒の距離にあり、100席ほどと小さくマイク等も不要なくらい高座との距離が近い寄席です。こちらも落語協会と落語芸術協会が10日交替で興行しています。下席の夜は日替わりの特別な内容で行われます。

鈴木演芸場：上野にある定席で、落語協会のみが昼夜入替で興行を行っています。

国立演芸場：最高裁判所の隣にある寄席で、通常の興行は上席・中席の昼のみ行われています。その他にも独自の興行が行われます。

天満天神繁昌亭：上方落語協会の悲願の定席で、2006年大阪にオープンしました。週替わりの昼席、日替わりの夜席に加え、週末は10時頃から朝席も行われます。

浅草東洋館：浅草演芸ホールの上の階にある色物の定席で、コントや漫才などが毎日行われています。円楽一門や立川流などの落語家が、色物の間にも出演することもあります。

上野広小路亭：畳敷きとパイプ椅子の寄席で、毎月1～15日の午後に落語芸術協会の定席が行われるほか、円楽一門や立川一門、講談などの興行が行われています。

両国亭：本所警察署隣のビル1階にある可動式椅子の寄席です。主に円楽一門が出演する定席が毎月1～15日の18時頃から行われています。大相撲とセットのツアーもあります。

お江戸日本橋亭：毎月下旬に落語芸術協会の定席があるほか、立川流や講談などの興行が行われています。

コラム8 落語の団体と所属人数など

現在、噺家の数は少しずつ増加しており、東西合わせて約 700 名に達しています。ここでは、東京・上方の主な落語の団体とその所属人数等をあげてみました。

(東京の団体と落語家の数)

一般社団法人 落語協会

柳家小三治会長、柳亭市馬副会長以下、約 270 人が所属し、都内の定席を中心に活動しています。毎年8月には東京・谷中の全生庵で「圓朝まつり」を開催しています。

公益社団法人 落語芸術協会

桂歌丸会長、春風亭柳橋、三遊亭小遊三副会長以下、約 140 人が所属し、都内の定席などで活動しています。毎年9月に都内の学校跡地で芸協まつりが開催されています。

山形県出身者：橘ノ圓師匠（南陽市出身）山遊亭金太郎師匠（小国町出身）

五代目圓楽一門会

落語協会の真打乱造問題を発端に、1978年に六代目三遊亭圓生師匠とその弟子たちが落語協会を脱退して結成しました。圓生師匠の没後、一番弟子の五代目圓楽師匠の一門のみが活動を続け、二番弟子以下は落語協会に復帰しました。

現在は、三遊亭鳳楽会長（五代目圓楽師匠の一番弟子）以下、約 50 人が所属し、毎月1～15日の両国亭などで活動しています。三遊亭小圓朝師匠もこの一門会の所属です。

落語立川流

落語協会の真打昇進試験の結果に不信感を持った立川談志師匠が弟子とともに落語協会を脱退し、1983年に結成しました。定席には出演せず、独自のシステムによる弟子の育成が特徴です（二つ目：落語 50 席と歌舞音曲など、真打：落語 100 席と歌舞音曲など）。

(上方落語の団体)

公益社団法人 上方落語協会

桂文枝会長以下、約 200 名が所属しています。山形県出身者では、桂さろめさん（天童市出身の女流；桂あやめ師匠の弟子）がいます。



コラム9 ドラマや映画、漫画など

ドラマや映画、漫画等でも落語をモチーフにした作品が多く出回っています。

初心者向けの作品はもちろん、落語通をもうならせるような作品もあり、これをきっかけに落語に興味を持ち落語ファンになる人も少なくありません。ここではそれぞれのメディアにおける代表的な作品を紹介したいと思います。

ドラマ

タイガー&ドラゴン（出演：長瀬智也、岡田准一、西田敏行 など）

ヤクザの主人公がひょんなことから演芸場で落語を聴いて感動し、落語家に弟子入りします。ストーリーは実際の古典落語がベースになっています。またたく間に落語ブームを巻き起こし、若者が寄席に足を運ぶきっかけとなりました。

〇ちりとてちん 出演：貫地谷しほり、京本正樹 など

NHK連続テレビ小説で2007年に放送されました。引っ込み思案でマイナス思考の少女が主人公。発売されたDVDは大ヒットしました。

映画

しゃべれどもしゃべれども（出演：国分太一、香里奈 など）

伸び悩んでいる二つ目の噺家の下に、口下手な三人が弟子入り志願してきます。「落語が好き」という情熱に負け、特訓を重ねていくストーリー。国分太一が軽快に落語を演じるシーンは必見です。

落語物語（出演：柳家わさび、ピエール瀧、田畑智子 など）

コミュニケーションの苦手な若者が落語家に弟子入りし、成長を描く作品。落語家の林家しん平が監督をつとめ、出演者には柳家喬太郎、春風亭百栄、春風亭小朝、三遊亭歌武蔵など、人気落語家が顔を並べるなど、落語ファンには堪らない作品です。

漫画

どうらく息子（ビッグコミックオリジナルで連載中）

保育園の先生をしている主人公が、本棚から引っ張り出した一冊の落語本と出会い、その著者である落語家に弟子入りします。人気落語家の柳家三三らが監修をつとめ、古典落語や落語界の裏側などが丁寧な描写で描かれています。ネタ選びの参考にもなります。

こたつやみかん（アフタヌーン）

無口で内気な主人公と才色兼備の転校生、この二人の落語マニア女子高生が落研を創設。かわいらしい絵柄とは裏腹に、落語愛に溢れた熱いストーリーです。稽古のためのヒントもちりばめられ、噺家必見の作品です。

この他にも、「昭和元禄落語心中」、「極ラクゴ」、「春奈ころりん」、「いろもん！」などがあります。

落語の用語辞典

<あ>

■兄さん（あにさん）：先輩や兄弟子を呼ぶ言い方。前座が兄さんと呼べるのは、二つ目までと決まっている。真打は師匠と呼ぶ。

■板（いた）：高座のこと。高座とは、落語家が噺をするために舞台上にしつらえた少し高い場所のこと。

■色物（いろもの）：落語、講談以外の芸のことで、特に音曲のことをいう。主な色物は奇術（手品）、三味線漫談、漫才、コントなど。

■薄い：寄席で客の入りが悪くないときに使われる言葉。

■お座敷（おざしき）：料亭など特別な場所での酒宴に呼ばれて落語を演じること。

■お囃子（おはやし）：芸人が高座に上がるときに、三味線や太鼓で演奏する音楽のこと。また演奏をする人を指す事もある。

■お膝送り（おひざおくり）：お客様を場内に多く入れるために、詰め込んだり移動させたりして場内整理をすることをいう。

<か>

■楽屋帳（がくやちょう）：同じ日の噺が重複しないよう、前座が日付・演目・演者などを書き付けるもの。ネタ帳ともいう。

■風（かぜ）：高座では必須の扇子のこと。いろいろなものに見立てて使う。

■木戸（きど）：寄席の入口のこと。案内人が立っており、ここで入場料を払う。

■木戸銭（きどせん）：寄席での入場料金のこと。

■くいつき：中入り後、最初にあがる芸人のこと。

■廓噺（くるわばなし）：遊郭、または花魁が出てくる噺のこと。明烏、紺屋高尾など。

■高座返し（こうざがえし）：ひとつの演目が終了したのち、次の演目の準備をすることをいう。演目と演目の間は必ず座布団を裏がえす。

<さ>

■定席（じょうせき）：常に興行が行われている演芸場。東京都内には鈴木演芸場、新宿末広亭、浅草演芸ホール、池袋演芸場がある。

■席亭（せきてい）：寄席のあるじ。小屋主。落語会の主催者のことをいうこともある。

<た>

■てけつ：寄席の入場券のこと。チケットが訛っててけつとなったといわれる。

■出囃子(でばやし)：落語家が高座に上がるときにかかる曲のこと。演奏に用いられるのは三味線、太鼓、笛など。

■天狗連(てんぐれん)：素人の落語家のこと。趣味が高じて舞台上がるようになった素人衆のことをいう。「全日本社会人落語選手権」などがある。

■とば：高座で着る衣装のこと。

■トリ：寄席の最後の出演者。「主任」と書き最後に高座へ上がる人のことでもある。

<な>

■仲入り(なかいり)：寄席の演目の半ばの休憩時間のこと。あるいはその前に入る芸人のことをいうこともある。

■鳴物(なりもの)：お囃子の三味線、笛、太鼓など寄席の音曲全般を総称したもの。

■根多(ねた)：演芸の題目のこと。

■ネタおろし：覚えたばかり、あるいは新演出の噺を初めて高座にかけることをいう。

<は>

■ばればなし：下がかかった噺。下ネタで、尾籠な噺など。

■ひざ：トリの前に高座に上がる芸人のこと。

■ふら：その芸人が持つ、独特のなんともいえないおかしさのことをいう。

<ま>

■まんだら：手ぬぐいのこと。本や財布などに見立てて使う。

■めくり：寄席や落語会で、高座の横に置いてある紙または木札のこと。演者を客に知らせるためのもの。

<や、ら、わ>

■やかん：落語の「やかん」という噺から出たもので、知ったかぶりをする人のことをいう。

■落日(らくじつ)：寄席の興行の最終日のこと。千秋楽ともいう。

■割り：寄席でお客様の入りに応じて支給される歩合給のこと。